



事業実施報告書

- | | |
|-----|------------------------------------|
| I | スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び |
| II | マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成 |
| III | スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築 |
| IV | 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成 |
| V | スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成 |

道府県・政令市名【札幌市】

1 実践テーマ	【 I・V 】
2 実施対象者	札幌市立米里小学校 第3学年 78名
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名（総合的な学習の時間、社会科） ② 行事名（ ） ③ その他（ ） (2) 地域における活動 ① イベント名（ ） ② その他（ ）
4 目標 (ねらい)	<ul style="list-style-type: none"> ・ウィンタースポーツへの興味・関心を喚起しながら、オリンピック競技への理解を深めるとともに、身体を動かすことに親しんだり、楽しんだりする心情を育て体力向上の取組のきっかけとする。 (主として「総合的な学習の時間」) ・札幌オリンピックミュージアムの見学を機会に、札幌市の特色やよさを調べ考えるとともに、札幌の歴史として受け継がれるものとして、札幌でオリンピックが開催されたことを理解する。 (主として「社会科学学習」)
5 取組内容	<p>○指導計画【5時間扱い】</p> <p>【事前学習】(1時間)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・札幌で冬季オリンピックが開催された事実を知り、冬季オリンピック、パラリンピックの競技種目について調べ、理解に深める。 (総合的な学習の時間) ・札幌には冬季のスポーツ競技の施設が数多くあることを調べる。 (社会科「市のようす」) <p>【オリンピックミュージアム見学】(2時間)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・冬季オリンピックで行われる競技を、施設設備を利用し模擬体験することで、冬季スポーツの楽しさなどを実感する。(総合的な学習の時間) ・大倉山ジャンプ台や、ジャンプ台スタート地点から土地の様子を見たり、展示物から札幌オリンピックの概要について調べたりする。 (社会科「市の様子」及び「のこしたいもの、つたえたいもの」) ・オリンピック、学芸員の講話を聞くことで、「希望をもつこと」や「努力すること」の大切さなどについて、自分なりの考えや思いをもつ。(道徳科) <p>【事後学習】(2時間)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事前学習で調べたことや見学したことをもと新聞等にまとめ、交流する。 ・社会科学学習「のこしたいもの、つたえたいもの」の単元で、年表に

	<p>まとめる際の項目の一つとする</p> <p>○取組の様子</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オリンピックで、ボブスレー選手の松野真奈美さんの講話から学習が始まった。何度も大きな怪我を負っても、オリンピック選手になるという強い気持ちを持ち、決してあきらめず練習を積み重ねたことから努力し続けることの大切さについて語っていただいた。また、大会で良い結果にならなくても、怪我を乗り越え、自分でやり尽くしたと思える練習に取り組めたことが、自分自身を認めることにつながり、さらに、自分が仲間と切磋琢磨しながら自分自身を鍛えてきたからこそ、自然と仲間に対して「おめでとう」と心から祝福することができたというスポーツマンシップの精神についても話していただいた。 ・館内見学で学芸員の方に説明を聞いたり、展示されている道具類やメダル、パネル説明を見たりした。さらにバーチャルではあるが普段、経験したことのないスポーツも体験した。 ・リフトに乗ってジャンプ台スタート地点を見学し、その高さを体感することで、スキージャンプ競技の様子を想像させた。さらに社会科学習として市の街並みを一望させ、その広さを実感することもできた。   
6 主な成果	<ul style="list-style-type: none"> ・松野真奈美さんのお話を聞いた後、子どもからたくさんの反応があり、数多くの質問をしていた。子どもたちが松野さんの現役当時の思いに共感し、努力することの大切さについて深く考えていたからだと考える。見学後の学校生活では、自らの活動に対して前向きに取り組む姿も増えてきている。 ・館内の見学時の熱心に夢中になって見聞する姿からは、今回の学習に、興味・関心を高めていく様子が窺えた。バーチャルでの模擬体験では冬季スポーツの楽しさを感じて笑顔で活動するとともに、自ら体感し「選手の凄さ」を想像する子どももいた。ジャンプ台のスタート地点では、「スタートする場所の高さが変わられる」ことに目を向けるなどジャンプ競技そのものに興味を抱いた。
7 実践において工夫した点	<ul style="list-style-type: none"> ・指導計画全般において本校独自で作成したワークシートを使用し、子どもたちが興味関心を高めながら、学習を進められるように配慮した。ワークシートは、子どもの経験、知っていると思われることをできるだけ取り入れて作成した。
8 主な課題等	<ul style="list-style-type: none"> ・学習を通して、オリンピック・パラリンピック、冬季スポーツに興味関心を高めることができた。本校はスキー場や競技施設等が近隣にない校区なので、その気持ちを子どもたちの普段の学校や家庭の生活（学習・遊び）に、いかにつなげていくのかを考える。 ・本校は、2年続けて推進事業を受けさせていただいたが、オリンピック・パラリンピアの講話やオリンピックミュージアム見学を毎年必ず受けられる保証はない。そのため、総合的な学習のカリキュラムに単元の一つとして組み込むことが難しい。
9 今後の取組について	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちにとって素晴らしい経験となるものなので、もし、今後も継続できるならば、新しい学習単元として更なる学習計画の改善を図っていきたい。 ・冬期間における身体づくりに関連させられないか検討を行う。